

株主の皆様へ

第58期 報告書

令和3年4月1日～令和4年3月31日



標高3,003m 雄山山頂：次の50年の高みに向かって、大きな1歩を



株主の皆様へ

代表取締役社長 見角 要

皆さまには、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、第58期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

一昨年より続く新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、世界中の人の往来を止め、経済市場に大きなダメージを与え続けております。日本国内でも同様に人流の抑制政策が主となり、厳しい経済状況が続いたまま2年間が経過しました。

観光業界におきましても、感染の世界的な拡大により海外インバウンドが消滅し、国内でも観光需要が大きく減少する状況となり、秋の感染減少時に一時的な回復の盛り上がりを見せたものの、旅行需要喚起策である全国的なGoToトラベルの実施もなく、おしなべて深刻な事態が続きました。

そうした中、当期の立山黒部アルペンルートは富山側の立山駅～弥陀ヶ原間部分開通は行わず、4月15日に立山駅～信濃大町駅間の全線において営業を再開いたしました。当期も「立山黒部アルペンルート安全・安心ガイドライン」に基づき、感染防止に努めながら、11月30日まで営業することができました。

営業の推移を概観いたしますと、全線開業50周年の節目であり、広く立山黒部の魅力を知っていただく好機でしたが、大都市圏を中心とした断続的な緊急事態宣言の発令により、国外はもとより県外からの誘致も難しく、地元・近隣からの誘致に頼らざるを得ない状況となりました。10月以降は感染減少により全国的に旅行が活発化しましたが、大都市圏からの旅行需要が大きく回復することはありませんでした。

当期は営業休止をせずに旅客受入れや誘致に努めたため、前期より入り込み客数は増加いたしました。が、全国的な誘致が叶わないこともあり、一昨年には大きく及ばない実績となりました。

この結果、当期の入り込み人員は合計304千人（前期比132%、74千人増）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが152千人（前期比147%）、大町入り込みが152千人（前期比121%）となりました。

国内旅客においては、富山県からご支援いただいた50周年記念の富山県民近隣県民向けキャンペーン自社商品を販売し、個人旅客（マイクロツーリズム）の誘致に努めました。また、本年度より運用開始した新運輸システム（名称：ARIS [アリス] 21）により、予約WEBきっぷの拡充、混雑状況の事前周知、自動発券機による迅速な引き換え、待ち時間の解消等、立山来訪の安心感や快適さの向上を図り、お客様より好評を得ました。

団体旅客につきましては、10月まで全国的な感染拡大が続き、旅行会社のツアー中止やキャンセルが相次ぐこととなり、実績が伸び悩む中、学生旅行においては、遠方から近隣への行程振り替えによる来訪増加となり、国内旅客全体の入り込み人員は303千人（前期比132%、74千人増）となりました。

一方、海外旅客においては、昨年同様に観光渡航の制限により、訪日観光客は発生しませんでした。在留外国人の個人利用が春の期間に多く見受けられました。（入り込み人員が1千人、前期比100%、増減なし）

3頁の「決算概要」に記載のとおり、当期につきましては、当期純損失計上のやむなきに至りましたため、株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、配当金につきましては、無配とさせていただきます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

現在、世界市場はウィズコロナで経済を回す立場へ変わりつつあり、人の流れが戻る気配を見せています。日本も同様に、ワクチン接種の進捗と相まって、極端な人流抑制政策からの転換を図りつつあり、予断は許さぬものの少しずつ観光が回復していく方向へ向かうものと思われまます。当社においても、効率的な事業運営に加えて旅客回復に向けた取り組みを進め、一日も早い業績の回復と経営基盤の安定化を図る必要があります。

令和4年度は全線開業51周年を経て、新しい次の一步を踏み出す時となり、今まで築き上げてきた観光地としての地力や「立山黒部」のブランドを土台に、お客様のニーズに合わせて変えるべきは変え、引き続きお客様から選ばれる観光地を目指していかねばなりません。

令和3年12月、営業各部門を統括して組織横断的な課題を解決する役割を担う「営業統括本部」、およびアルペンルート全般の営業方針を策定する「営業企画室」を新設いたしました。今後とも、「感動を快適に」「変革への挑戦」「回復と蓄積」の3つのキーワードを基本方針とした中期経営計画を鋭意推進してまいります。

経営基盤の安定を図るため、令和3年7月、欠損金を補填し財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策の柔軟性および機動性を確保すべく、資本金および利益準備金額の減少ならびに剰余金の処分を行いました。

また、これまでの大量集客を前提とした事業運営を見直し、引き続きスリムな運営体制の構築を目指してまいります。加えて、予約制の拡充等により繁閑による旅客の変動を少なくし、平準化を図ることで、輸送力や要員の効率化に取り組んでまいります。

当社の所有するホテルの運営につきましては、旅行形態の変化等により経営環境が厳しさを増しております。コロナ感染流行の影響が長引く中、当社経営に与える影響を回避するため、令和2年度末に宇奈月国際ホテルを売却いたしました。

一方、弥陀ヶ原ホテルにつきましては、コロナ感染拡大により、令和2年度以降は営業を中止しておりましたが、令和4年度より外部会社へ運営を委託し、事業コストの縮小を図りつつ、営業を再開いたします。

より一層の収益向上のため、中核事業へ専念するスリムな体制を整え、更なる効率的な事業運営を目指してまいります。

今後の旅行スタイルはコロナ収束に向かうにつれて、徐々に「地元・近隣」から「遠方、広範囲」へ変化すると考えられますが、当面のポイントは個人旅客の積極的な誘致であります。

昨年度から稼働・販売を開始した「予約WEBきっぷ」をよりお買い求め易くするために便利な自動受取機を増設するなど、立山来訪の安心感や快適さに磨きをかけて一層の個人旅客の誘致体制を整えてまいります。

地元・近隣の個人誘致は、昨年度に引き続き、富山県・近隣県・関係市町村・関係機関等のご協力をいただきながら、気軽に予約購入できる「予約WEBきっぷ」を活用した自社商品などを積極的に企画・販売し、立山黒部の再発見、マイクロツーリズムの活性化に努めてまいります。

また、国内旅行会社とは、今まで連携してきた相互協力関係を土台にして、ウィズコロナの中でも、高付加価値で収益性のある商品を作成し、臨機応変の販売展開により誘客に努めてまいります。

さらに、今後は比較的感染者数の少ないアジアを中心に観光旅行の再開による来訪が見込まれることから、今後とも伸びしろのあるインバウンドについては、動向を注視しつつ再開に向けて万全を期してまいります。

立山黒部アルペンルートは、昨年度、「自然とともに50年 感謝を込めて」のビジョンのもと全線開業50周年を迎え、各記念行事・キャンペーン等で関係各所より多大なご協力と応援をいただきました。心より感謝申し上げます。

令和4年度は、次の50年に向けた新しい第一歩を踏み出す年であり、幾多の先人の方が築き上げてきた「立山黒部」ブランドを、今後とも多くのお客様に支持していただけるよう、選び楽しんでいただける観光地への進化、収益に結び付く営業活動の強化、安全・安心な立山黒部アルペンルートの構築、そして大自然立山の自然環境保全に、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算概要

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

【単体】

損益概要

(単位:百万円)

	令和 3年度	前期差	令和 2年度
	営業収益	1,277	359
営業費	2,598	△543	3,142
営業利益 (△は損失)	△1,321	903	△2,224
経常利益 (△は損失)	△1,228	822	△2,050
当期純利益 (△は損失)	△764	2,792	△3,556

資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 3年度	前期差	令和 2年度
	資産の部	10,312	132
流動資産	3,632	900	2,732
固定資産	6,679	△768	7,448
負債の部	9,042	934	8,108
流動負債	1,038	△525	1,564
固定負債	8,004	1,460	6,544
純資産の部	1,270	△801	2,071

当期の営業収益は、12億77百万円（前期比139%）となりました。一方、営業費は、大変厳しい経営環境を踏まえ、スリムな運営体質へ変えていくために、さらなる費用抑制に努め、費用合計は25億98百万円（前期比82%）となりました。

これに、雇用調整助成金及び補助金等の営業外収益2億97百万円、営業外費用2億4百万円を加減した当期の経常損失は12億28百万円となりました。さらに、富山県並びに立山町からの補助金等による特別利益5億60百万円、特別損失90百万円等を加減した税引前当期純損失は7億58百万円となり、法人税等を減額した結果、7億64百万円の当期純損失を計上することとなりました。

【連結】 連結子会社：立山貴光ターミナル(株)、立山黒部サービス(株)

損益概要

(単位:百万円)

	令和 3年度	前期差	令和 2年度
	営業収益	2,020	760
営業費	3,489	△836	4,325
営業利益 (△は損失)	△1,469	1,596	△3,065
経常利益 (△は損失)	△1,305	1,552	△2,858
親会社株主に 帰属する当期純 利益(△は損失)	△737	2,886	△3,624

資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 3年度	前期差	令和 2年度
	資産の部	11,090	17
流動資産	4,087	665	3,422
固定資産	7,002	△648	7,650
負債の部	9,879	837	9,041
流動負債	1,146	△570	1,716
固定負債	8,733	1,408	7,324
純資産の部	1,210	△820	2,031

連結子会社の損益概要

(単位:百万円)

	立山貴光ターミナル(株)	立山黒部サービス(株)
営業収益	927	48
営業費	1,092	58
営業利益(△は損失)	△165	△9
経常利益(△は損失)	△132	△9
当期純利益(△は損失)	△129	△5

当社の保有する弥陀ヶ原ホテルの運営においては、新型コロナウイルス感染症の影響における厳しい状況に鑑み、立山貴光ターミナル(株)との経営委託契約は令和3年3月31日に解消しておりますが、令和4年度より外部会社へ運営を委託して3年ぶりに営業を再開いたしました。

営業概況

■入り込み人員

(単位:千人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
富山入り込み	425	104	152
大町入り込み	458	126	152
入り込み人員合計	883	230	304
内、当社線入り込み人員	675	150	203

会社概要 (令和4年3月末現在)

- 所在地 〒930-8558 富山県富山市桜町一丁目1番36号
- 電話 (076) 441-3331
- 設立日 昭和39年12月25日
- 事業目的 自動車運送事業、鉄道・軌道及び索道事業、ホテル・旅館事業、売店・食堂その他飲食物販売業、旅行業法に基づく旅行業
- 資本金 1億円
- 発行済株式総数 8,973,240株 (自己株式318,428株を除く)
- 株主数 1,421名
- 役員 (令和4年6月29日現在)

代表取締役社長	見角 要
専務取締役	中川 修
常務取締役	高江 均 (技術環境部担当)
常務取締役	中村 直幸 (経理部長)
常務取締役	秋元 一秀 (営業推進部担当)
取締役	新田 八朗
取締役	永原 功
取締役	庵 栄伸
取締役	宮本 信之
取締役	辻川 徹
取締役	藤井 裕久
取締役	牛越 徹
取締役	尾崎 浩二
取締役	大谷 真一 (運輸事業部長)
取締役	川高 健裕 (経営企画室長)
取締役	杉林 義宏 (技術環境部長)
監査役	出来田 肇
監査役	舟橋 貴之
監査役	新庄 一洋

株主関連

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
 - 株主優待券 2月末日
 - 定時株主総会の議決権 3月31日
 - 期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人
東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
日本証券代行株式会社
- 同取次場所
日本証券代行株式会社 支店
三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
- お問合せ・送付先
〒168-8620
東京都杉並区和泉2-8-4
日本証券代行株式会社 代理人部
0120-707-843 (フリーダイヤル)

単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

<単元未満株式の買取り>

株主様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

<単元未満株式の買増し>

株主様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主様に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記**日本証券代行(株) 代理人部**までお問い合わせください。

株主優待制度

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			ホテル宿泊 ご優待割引券
	種 類	通用区間	発行枚数	
100株～150株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	1枚	2枚
150株～300株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂	2枚	2枚
300株～400株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	2枚	2枚
400株～600株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	2枚 2枚	2枚
600株～800株未満	優待乗車券(片道)	立山～室堂 立山～黒部湖	2枚 4枚	2枚
800株～1,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	6枚	2枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	8枚	4枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券(片道)	立山～黒部湖	16枚	4枚
3,000株以上	優待乗車券(片道) 優待乗車証(記名式)	立山～黒部湖	24枚 1枚	6枚

- 優待有効期間：各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

当社は、「株主関連・株主優待券」につきまして、令和4年2月末日を基準日とする株主優待制度から、上記の内容へ改定いたしました。

～旧「立山開発鉄道株式会社」株券をお持ちの株主様～

当社では、合併により消滅した立山開発鉄道株式会社の株券と、当社株券との引換えを行っております。まだ引換えのお済みでない株主様は、新株券との引換えをお願い申し上げます。

なお、引換えのお手続きにつきましては、左記日本証券代行(株) 代理人部までお問い合わせください。

